

おはよ



兵庫県障害児学校教職員組合（障教組）

神戸市中央区北長狭通5丁目2-10

高教組内

Tel:078-341-6745

2017年9月号 全職員配布

障害のある子どもにとって「はたらく」ってどういうこと？



～「キャリア」「検定」の動きの中で～

夏の学習会（9月3日）報告

三木裕和教授（鳥取大）講演より そもそも労働とは？

- ・そもそも障害者にとって働くことは権利である。「僕たちも働けるんだ」と作業所を作ってきた。でも今の流れは、働くことが義務になっていないか。
- ・働く上で、集団性が大切。サッカーチームで「ここにいると強みを発揮できる」そんな集団作りが大切。集団を育てる実践の創造を！
- ・規律重視の形式的な「ほうれんそう」ではなく、寛容で弱さを許しあえる環境の中でこそ、豊かなコミュニケーションが育まれる。
- ・評価に過敏な子を育ててはいけない。周りが二分的評価を繰り返してガンバしだけの耐性訓練になると、逃避と反抗が繰り返され、その結果、卒業後の失敗経験で人格が崩壊する例も多い。目標と自分の力のズレと向き合って、自らゆるやかに乗り越える経験を学校時代に！それを見守るのが私たちの仕事ではないか。
- ・キャリア教育推進のウラに、福祉切り捨て、納税者作りの意図があるのではないか。

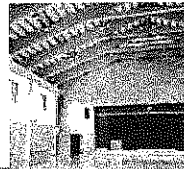
*裏面に「実践発表（芦屋・いなみ野）とパネルディスカッション」の記録を記載しています。

新設校「西神戸高等特別支援学校」に分会結成！

8月末、本部役員で分会結成のお祝いと校長先生へのご挨拶に伺いました。農業公園の中の真新しい校舎。広い更衣室、充実した設備の数々に思わず見学者から「うらやましい」の声・・・。新設校はとかく職員の業務が過重負担になりがちなので、勤務時間の適正化について校長先生にお願いしてきました。新たな実践の創造と、広がる仲間の輪に期待して。おめでとうございます！



黒板の上に
プロジェク
ターが常設



明るく広い
体育館。ステ
ージが低い

知ってますか？その1 給与確定に関わる組合の奮闘

県教委と組合の交渉が始まります。今年の交渉の柱は、地域手当の引き上げと行革カット廃止による賃金アップで、組合役員が何度も交渉を重ねます。山場には徹夜交渉も持たれるなど、毎年の奮闘によって私たちの賃金や諸権利は改善されていきます。みんなで支えていかないと、何も進みません。

知ってますか？その2 管理職によるパワハラ事例が続出！

県下の高校で管理職が「能力がない！」などと大声で職員を罵倒する、反対意見を言うと嫌がらせをする、修学旅行の行き先を独断で変更して校内を混乱させるなどのパワハラ事例が続出しています。「明日は自分が攻撃されるのでは」という恐怖で、職場で物が言えない状況でしんどいという訴えが組合本部に寄せられ、役員が抗議と改善を要求して奔走しています。パワハラは絶対に許してはならない！身近に気になることがあれば、我慢しないですぐに組合に言ってください。

続き：実践発表（苜屋・いなみ野）とパネルディスカッション



- ・教育内容に突然の押し付け。学校予算切り詰めや教室不足に喘いでいる中で実施。
- ・画一的な検定項目。実際の現場で求められる柔軟な対応をすると評定が✖、なぜ？
- ・生徒も教師も一生懸命取り組んだ。検定合格でやる気に繋がった生徒もいた。
- ・でもそれが実際に就職に結びつくとは思えない。県が宣伝したけれど企業は見に来なかった。

【三木先生の助言】

- ・立ち止まって考えよう。これが子どもにとって本当に必要な学びなのか。必要だとすれば、どう展開すればいいのか。それが「検定」で良いのか。高等部でやっているから小中でも、そんな発想で子どもの発達の課題や願いが実現できるのか。教育目標にすり替わる危険性。
- ・検定の評定項目は科学的な理論に基づいているのか、ぜひ検証を続けてほしい。

今後も学習と検証を続けていきます。
ご意見お待ちしております



兵庫県の障害児教育をゆたかにする会

「ゆたかに署名」 始まりました！

もっと広い音楽室がほしい。使いやすいトイレに改修してほしい。
卒業後の学びの場（専攻科）もほしいし、重度の子のくらしの場も足りないし。
県議会に私たちや保護者の要求を訴えるチャンスです。



昨年度は1万4千筆の署名で請願しました。毎年の運動で、学校の新設は随分進みましたが、まだまだ「豊かな障害児教育」には届きません。お知り合いの方にも声をかけて、子どもたちのことを知ってもらうチャンス！ご協力よろしくをお願いします。